

## マタイによる福音書 3章13—17節

●福音書はすべて、イエス様がヨハネから「悔い改めの洗礼」を受けられたことを記しています。神の子であるイエス様にはそのような洗礼を受ける必要がなかったはずですが、あえてそれを受けられた理由は、「神の心に適う者」としての生き様を示すためだったのではないのでしょうか。

●洗礼には罪を洗い流すというイメージがありますが、本来の意味は「水に沈める」という行為を通じて、人が最も低い位置に立ち、謙ることです。イエス様がこの世で最も低い死海に近いヨルダン川で洗礼を受けられ、そこに神の聖霊が降ったという出来事は、イエス様がその生涯を通じて低く弱い人々と共に歩む覚悟を示し、それが神の御心であることを教えています。

●日本の牧師・中森幾之進は「下へのぼる歌」という本を記した人物で、イエス様に倣い歩む道を選びました。彼は吉野川で独自に洗礼を行い、神学部の入試では「アイ・アム・インバイテッド・バイ・ジーザス」と繰り返すことで入学を果たすなど、ユニークな信仰の持ち主でした。しかし、社会活動への関わりが原因で退学を余儀なくされ、その後、絶望の中で神を呪い、山奥で自死を試みるまで追い詰められました。それでも聖書の一節に触れ、神は呪う自分をも愛し赦してくださっていると実感し、信仰を取り戻したのです。その後、中森牧師は社会の底辺に生きる人々と苦楽を共にし、70歳で教会を辞してドヤ街に移り住み、彼らとともに伝道が続けられたのです。

中森牧師の信仰の根底には、「人生のどん底にまでイエス様が降りてきてくださり、救ってくださった」という確信がありました。その確信を大切にし、自らも社会で問題を抱え、低められている人々と共に歩まれたその生き様に、私たちは大きな励ましを受け、また多くを教えられます。

●「キリストは、神の身分でありながら、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。」というフィリピの信徒への手紙の言葉にあるように、イエス様は神でありながら、私たちに寄り添うために自らを低くされました。

私たちはしばしば上へと登り、清らかで偉い存在を目指そうとしますが、イエス様の生き様はその逆を示しています。イエス様はどんな人々とも共にいてくださることを通じて、聖霊の働き、神の愛の深さを教えてくださるのです。私たちもまた、自分の小ささや弱さを認めつつ、神に愛されていることを信じ、謙りの心をもって歩むことに神の御心があることを信じて生きる者でありたい、そう願います。